

躍 YAKUDO! 動

SPORTS

SPORTS PEAK PERFORMANCE



財団法人 山形市体育協会



山形北高校チアリーダー部

第4回全日本チアダンス選手権大会 ポンポン部門で優勝

写真提供：山形新聞社



会長あいさつ

早坂 孝

この度、本協会の役員改選により、会長に就任しました早坂孝であります。

西谷金蔵前会長の後を引き継ぎ、山形市のスポーツ普及・発展に微力ではありますが、最善を尽くして努力をする所存でありますので、関係各位の皆様方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

近年、本県関係のスポーツ選手が国内外を問わず大活躍していることは、市民はもとよりスポーツに係わりを持つ私たちにとっても、大きな喜びと誇りを、さらには活力まで与えてくれています。これは、ひとえに選手達の日頃の精進と努力、そして指導にあたっての指導者並びに関係各位のご支援・ご協力の賜物であると心より感謝しております。

本協会も財団法人となり四年目に入りお陰様で組織並びに事務局の体制も整ってまいりました。本年度の新しい事業として「財団法人山形市体育協会指導者バンク制度紹介」をスタートしたところであります。現在二十五種目で指導者一十九名であります。今後追加・増員と活用をPRと充実を目指していきます。また来年度には、本協会独自の「公認指導者制度」を実現すべく準備しているところであります。次に、「総合型地域スポーツクラブ」の創設に向けての動きであります。金井地区に於いて、平成十六年四月から住民の方々が自らの手で河川敷にグラウンド（二面）をつくることから始め、多くの会合を重ね、ついに「金井地区ほなみふれあいスポーツクラブ」の設立に踏み切り、日本体育協会の育成指定クラブに決定したところであります。現在、国をあげて「生涯スポーツ社会」の実現が叫ばれ、国民（市民）が健康で幸せな生活を送ることへの期待がもたれています。そのため、スポーツ活動の重要性が益々大きくなってきております。本市に於いても、各地域・組織・団体・企業等で様々な努力をしているところであります。本協会がその中核となり、スポーツの持つ特長を充分に生かし「生涯スポーツ都市山形市」の実現に向け努力していきたいと思っております。関係各位のご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

頂点

PEAK

第23回全国都道府県対抗女子駅伝に出場して

山形県女子駅伝・監督

吉田 進

昨年初の四位入賞を果たし、今年は周囲の期待も更に高まり私自身がややプレッシャーを感じておりましたが、選手達はキャプテン熊坂香織選手を中心に緊張の中にも明るく伸び伸びとした雰囲気、「二年連続入賞」を目標に臨みました。今回は昨年のエントリーマンバーが八名おり、その内五区間を同一選手が走るということや中学・高校生の方がアップしてきたこと、またふるさと選手として起用する佐藤由美選手は三年連続の一区、アンカー石山しおり選手は初出場ではあるが全日本実業団駅伝大会において、区間賞を獲得するほど実力をつけていたので、戦力的には昨年以上と予想していました。そして地元スポーツ山形21所属の熊坂香織選手も夏の大切な走り込みの時期に疲労骨折に見舞われる試練にも良く耐え、昨年僅か二秒差で区間賞を逃した悔しさをこの一年間ずっと忘れることなく努力し続けてきました。このようなきざまざまな要因がすべて良い結果につながり、一区佐藤が五位で熊坂に繋ぐと区間新記録の快走で昨年と同じく前半からレースの主導権を握り、繋ぎ区間である中学・高校生が期待以上の走りアンカーの石川しおりが三位

で繋ぎ、他チームの激しい追い上げと競り合いの中冷静な判断と粘り強い走りを見せ、三位でゲートに姿を現した瞬間の感動は今も鮮明に甦ります。第一回大会で四十三位のチームが二年連続上位入賞を果たすことを誰が予想したでしょうか？これもこの女子駅伝に係わってこられた多くの方が「やれば必ず出来る」と信じ心一つにして取り組んできた努力の賜です。夢を現実のものとした今、この自信と勇気と誇りを持って今後も更に新たな目標に向かいみなさんで挑戦して行きましょう。

吉田 進 氏



昭和三十四年一月二十八日生まれ、福島県・安積商業高(現帝京安積高校)卒。

第二十三回全国都道府県対抗女子駅伝で山形県の監督として出場し、みこと過去最高二位の成績を導いた。
 【競技種目】陸上競技・長距離(八〇〇m・一五〇〇m)
 【競技歴】十三年
 ・島根国体成年A一五〇〇m 優勝(大会新)
 ・全日本実業団八〇〇m 優勝
 ・日本選手権八〇〇m 第一位・一五〇〇m 第二位
 ・第五回アジア選手権(クウェート)一五〇〇m(銀)
 【指導歴】十七年目

※「九年連続十四回出場(平成十六年まで)」
 ・平成八年 広島国体八〇〇m競歩 第二位
 ・平成九年 大坂国体三〇〇m競歩 第三位
 ・平成十年 神奈川国体少年少女A一五〇〇m 第三位
 ・平成十一年 日本ジュニア選手権一五〇〇m 第三位
 ・平成十二年 岩手インターハイ三〇〇m 第八位
 ・平成十三年 日本ジュニア選手権三〇〇m 第四位
 ・平成十四年 ジュニアオリンピック一五〇〇m 第五位
 ・平成十五年 宮城国体一五〇〇m 第八位
 ・平成十六年 ジュニアオリンピック一五〇〇m 第五位
 ・平成十七年 ジュニアオリンピック一五〇〇m 第三位
 ・平成十八年 埼玉国体五〇〇m競歩 第八位
 現在の勤務先は、山形城北高等学校事務職勤務。

第23回全国都道府県対抗女子駅伝に出場して

山形県女子駅伝・コーチ

川口 泰子

今年の一月十六日、全国都道府県対抗女子駅伝でアンカー石山が三位でゴールした瞬間は、今でも鮮明に思い出されます。私自身も高校時代同じ京都の大会を補欠ながら経験しましたが、その時の成績は四〇位代。あれから十五年余り、全国のトップで戦えるチームになれたのも地道な強化の積み重ねが実りまた、周囲の方々のご支援の賜物と深く感謝しております。

川口 泰子 氏



昭和四十七年五月二十三日生まれ、山形城北女子高等学校校卒。

第二十三回全国都道府県対抗女子駅伝でコーチとして出場し、みこと過去最高三位の成績を導いた。
 【競技種目】陸上競技・長距離
 【競技歴】三年
 ・平成元年 全国高等学校女子駅伝競走大会出場(高校二年・三区) 女子駅伝競走大会出場(補欠)
 【指導歴】十五年目

・平成三年度 山形県女子駅伝チームコーチ
 ・平成十二年 山形県女子駅伝チームコーチ(マネージャー)
 ・平成十七年度 山形市女子駅伝チーム監督
 現在の勤務先は、山形市役所に勤務

輝かしき記録に想う

第四十三回全日本五十キロ競歩
高島大会 高校女子五キロ 優勝

山形城北高校 陸上部
高橋 初実

私にとって、高校最後のレースとなった高島競歩大会。正直、最後まで言っても実感がわかず、とにかくゴールまで頑張ろうとレースに臨みました。先生の声で後ると差があることを知り歩型を大事に歩きました。競歩をするきっかけとなったのは一年の冬足を痛めたことです。始めは内心戸惑いましたが気づけば競歩が好きになっていました。恥ずかしさもありましたが、それは笑われないうように早くなるとういう前向きな開き直りになりました。この種目に出会えたことで精神面でも変わったと思います。それまで、ただがむしゃらに頑張っていたのが、競歩にはルールがあり、ただ頑張るだけでは無駄だったからです。そのことが競歩に対する姿勢を変えてくれたと思います。競歩について色々勉強しました。県外の合宿でできた友達との約束「大会での再会」は全国を意味



写真提供：山形新聞社

して、私の目標となり励みになりました。私は一人では頑張りきれなかったと思います。そんな私が最後のレースを優勝という結果で終われたこと、インターハイや国体で入賞できたのも常に選手のことを考え指導して下さいました先生方、いつも刺激をくれ支えてくれた仲間や家族、応援してくれたみなさんのおかげであり心から感謝しています。

今になり、練習はきびしかったけれど毎日一生懸命頑張っていた日々が充実し、周りの方々の支えがあったからこそ頑張れていたと改めて思います。また、「やればできる」「最後まで諦めない」などの気持ちの大切さ、目標があることで頑張れる強さなどを身にしみて実感しています。このことは、これからの生活でも大切なことで、とても貴重な財産です。高校卒業し、ますます自己管理が大切な今、もう一度自分自身をみつめ直し過ごしていこうと思います。最後に「努力する」とは本当に素晴らしいことです。

第二回全日本ダブルミニ競技
選手権大会（トランポリン）

男子団体優勝・十七歳以上の部 五位
東海大山形高校・上山トランポリンクラブ
高橋 光

私がトランポリンに初めて出会ったのは小学校三年生の時であり、約十年間続けていることになる。飽きっぽい性格の私が、これほど長く続けられるとは、取り組んだ最初の頃は考えられないことであった。

私がこれほどまでに夢中になった理由は、空中を高く飛び回転することが単に身体を動かしているのではなく、自分自身を表現できるものがあり、今までにない新鮮さを感じることができたからだと思う。

しかし、常にトランポリンが好きだったわけではない。夏の合宿や試合前の強化練習は普段の練習以上に



右から高橋光選手（東海大山形高校2年）、武田遼介選手（天童四中1年）、清野太基選手（上山明新館高校1年）

厳しく、自分の思い描いた演技ができずに悔し涙を流した時も数多くあった。また手や足の捻挫、そして腰痛など怪我との戦いを強いられた時期もあった。そんな時、「何のためをやっているのか」と思い悩み、辞めたいと考えたこともある。

今回の選手権大会に向けての練習中にも気持ちが揺れ動いた。試合が間近に迫り、今までできた演技も緊張のあまり、失敗し、技と技がバラバラで流れるような演技ができず、とても落ち込んだ。そんな時、私の周りに温かい言葉をかけてくれる仲間やコーチ、そして優しく見守ってくれる母がいた。そんな励みもあって、大会では自分でも納得のできる最高の演技をし、優勝することができた。自然とうれし涙が目からあふれ、コーチや仲間と抱き合い喜びを分かち合った。この喜びは、これまで様々な挫折があったが、それら乗り越えたからこそ味わえたものだと思った。また、これまで私を支えてくれた人々に対する感謝の気持ちでいっぱいになった。

私はトランポリン競技を通して、「人は決して一人では生きていけない。周囲の人々に助けられ初めて生きていることができる」ということを学んだ。だから、これからは私も他の人の手助けとなれるように、トランポリンを通して人格的に成長し、相手の気持ちの分かる人間になりたいと思っています。

輝かしき記録に想う

第四回チアダンス選手権大会

ポンポン部門 優勝

山形北高校 チアリーダー部

横尾 麻里奈

「心から楽しんで踊る。見ている人を楽しさを伝える」これが代々、先輩方が築いてきたチアリーダーとしての原点。これを引き継ぎ、臨んだ初めての大会。初めてのチームで初出場。それを聞いた時、正直期待よりも不安の方が大きくありました。練習もなかなか思うようにはいかず、人数が二十九人もいる中で気持ちを一つにすることが私達にとって最大の課題でした。しかし、先生、先輩、

家族、たくさんの方に支えられ、時に涙することもありました。声をかけあい励ましあって一つにまとまることができました。

大会当日、たくさんの方の応援が私達に力を与えてくれたおかげで自分たちらしい演技ができ、予選を見事突破し、十一月二十三日、思いがけず「優勝」を手にすることができました。

この大会を通して本当にたくさんの方に支えられていることを強く感じました。自分たちの周りに温かい目で見守り、応援して下さる人がいることを何よりも幸せなことであると改めて感謝の気持ちでいっぱいです。そして、私



全日本実業団

スケート男子五〇〇メートル 優勝

県体育協会

寺島 賀寿生

昨シーズンは、ワールドカップ出場・国体個人種目の優勝と目標を立ててシーズンオフからトレーニングを重ねてシーズンに入りました。残念ながらワールドカップ出場はなりませんでしたが、全日本実業団競技会では二種目での優勝・冬季国体では五〇〇メートルで念願の優勝を果たすことができ最高のシーズンとなりました。

特に全日本実業団競技会では、勝ちにいつて勝てたということが大きく自信になったと思います。また国



第60回国民体育大会(冬季大会)成年男子500mで初優勝を飾った
写真提供: 山形新聞社

体は他の大会と競技方法が違いシンドラックで行われるのでとにかくスタート時の接触とスタート後の位置取りに神経を集中して滑りました。いま、初めて決勝のスタートラインに立った時の事を振り返るとすごく興奮していましたが、反面すごく冷静でいられた部分もあり、あれが良い集中の状態なのかなと思います。

表彰式で一番高いところから見た景色は今までに見たことがないくらい最高で、オリンピックの表彰台から見る景色は更に最高だろうなと思います。現在、トリノオリンピック出場を目指し、日々試行錯誤を繰り返しながらトレーニングに励んでいます。これまで応援・支援していただいた数多くの方々の為にも、また今年を競技生活の中で一番良かったと言える年にする為にも、一生懸命頑張りますのでこれからも応援よろしくお願いたします。

SPORTS PEAK PERFORMANCE

写真提供:山形新聞社



第23回全国都道府県対抗
女子駅伝：駅伝3位
石山しおり(三井住友海上：山形城北高校出)



スピードスケート世界距離別選手権
男子500m：優勝(トリノ五輪内定)
加藤条治(三協精機：山形中央高校出)



全日本アルペン選手権
男子回転：優勝
生田 康宏(東京美装：日大山形高校出)

氏名	所属	競技名	大会名	種目	
加藤条治	三協精機	スケート	世界距離別選手権	男子500M	1位
			世界距離別選手権	男子500M	1位
			W杯ハルビン大会	男子500M	2位
			全日本スプリント選手権第1日	男子500M	2位
			W杯オランダ・ヘーレンフェイン大会	男子500M	総合2位
			W杯オランダ・ヘーレンフェイン大会	男子500M	3位
			W杯長野大会 男子500M	男子500M	3位
			W杯ハルビン大会 男子100M	男子100M	3位
			全日本スプリント選手権最終日	男子総合	3位
			W杯カルガリー大会	男子500M	3位
			W杯エアフルト大会	男子100M	5位
			W杯カルガリー大会	男子500M	9位
			世界スプリント選手権	男子総合	11位
			全日本スプリント選手権最終日	男子総合	2位
全日本スプリント選手権第1日	男子1000M	2位			
W杯カルガリー大会	男子1000M	2位			
世界スプリント選手権初日	男子総合	2位			
W杯ハルビン大会	男子1000M	3位			
全日本スプリント選手権第1日	男子500M	3位			
世界スプリント選手権2日目	男子総合	4位			
W杯ハルビン大会	男子500M	4位			
W杯エアフルト大会	男子1000M	7位			
W杯オランダ・ヘーレンフェイン大会	男子500M	7位			
W杯エアフルト大会	男子500M	9位			
小林和朗	県スケート連盟	スケート	アジア距離別選手権第1日	男子1500M	1位
新宮由貴	山形城北高	ライフル射撃	欧州大会(ハーグ)	ジュニアクラス	1位
			欧州大会(ハーグ)	ジュニアクラス	2位
			欧州大会(ミュンヘン)	ジュニアクラス	7位
全日本選手権	エアライフル女子Jr	1位			
県選抜		駅伝	第23回全国都道府県対抗女子駅伝大会	駅伝	3位
石山しおり	三井住友海上	駅伝	全日本実業団対抗女子駅伝	駅伝2区	1位
大神雄子	JOMO	バスケットボール	全日本総合選手権		4位
飛塚雅俊	了徳寺学園	柔道	全日本選手権	100キロ超級	8位
寺島賀寿生	県体協	スケート	全日本実業団競技会	男子500M	1位
			全日本実業団競技会	男子1000M	1位
			全日本選抜競技会	男子1000M	3位
寺島賀寿生	県体育協会	スケート		成年男子500M	1位
清野大輔	専修大学	スキー		アルペン成年男子A	2位
国分 惇	日大山形高	スキー		少年男子大回転	3位
大場朱莉	日大山形高	スキー		少年女子大回転	3位
成年男子チーム		スケート	第60回国民体育大会 冬季大会	成年男子2000M	4位
荒井 充	市スポーツ振興事業団	スケート		成年男子1500M	6位
中野浩一	山形中央高	スケート		少年男子5000M	6位
須郷 遥	山形中央高	スケート		少年女子3000M	7位
斉藤俊樹	日大山形高	スキー		少年男子大回転	8位
生田康宏	東京美装	スキー	全日本アルペン選手権	男子回転	1位
			FIS野沢温泉カップ	男子大回転	1位
			FIS野沢温泉カップ	男子回転	1位
水田岳彦	クラブ調布			男子50M平泳ぎ	2位
庄司有太	中央大学			200M個人メドレー	3位
渡辺直幸	中央大学	競泳	日本選手権	男子100M背泳ぎ	6位
庄司有太	中央大学			400M個人メドレー	6位
斉藤利樹	山形市役所			男子50M平泳ぎ	6位
山科博史	日本大学	スキー	全日本学生選手権	アルペン男子回転	1位
高橋初実	山形城北高	競歩	第43回全日本50キロ競歩高島大会	高校女子5キロ	1位
山形北高校	チアリーダー部	チアダンス	第4回全日本チアダンス選手権大会	ポンポン部門	1位
高橋 光	東海大山形高			男子団体	1位
森 慶祐	東小学校	トランポリン	第2回全日本ダブルミニ競技選手権	個人	1位
国分 惇	日大山形高	スキー	全日本Jr選手権アルペンスピード	男子スーパー大回転	1位
鶴淵優利	日大山形高	スキー	全日本Jr選手権アルペンスピード	男子スーパー大回転	2位
須藤 遥	山形中央高	スケート	第54回全国高校スケート選手権	女子1000M	5位
長谷川正樹	山形中央高	スケート	第54回全国高校スケート選手権	男子1000M	8位
国分 惇	日大山形高	スキー	第54回全国高校スキー選手権	男子大回転	5位
大場朱利	日大山形高	スキー	第54回全国高校スキー選手権	女子回転	5位
岩田佳央梨	日大山形高	スキー	第54回全国高校スキー選手権	女子回転	7位
後藤麻衣	山形城北高	新体操	全国高校選抜大会	種目別クラブ・ボール	6位
庄司七瀬	山形RG	新体操	全日本ユースチャンピオンシップ	個人総合	8位
				個人総合	1位

山形地区バレーボール協会

会長 志田 翼

山形市バレーボール協会からバトンタッチし、平成十二年から山形市体協にお任せになっております。

昭和二十一年に設立された本協会は、山形・上山・天童・寒河江の四市とその隣接する六つの町を網羅した組織体系を形成し、県内六地区の中では群を抜いた最大規模の陣容を備えています。

昭和二十五年、全日本高校選手権で山形南高が第三位に入賞したことは創設初期の協会活動に大きな力となり、その後も山形南高や専売山形の全国大会での活躍があつて、昭和四十六年「春高バレー」の日大山形高準優勝に引き継がれ、同校はまた昭和四十八年沖繩特別国体で優勝を飾る。翌昭和四十九年には山形工業高が全国高校定時制大会で優勝、



昭和五十四年の国体で山形学院高が三位。社会人では「専売山形」が昭和五十九年の全日本九人制総合で準優勝、「日本たばこ山形」と名称を変えて以後も国体・クラブ

カップ・都市対抗などで準決勝進出を続け全国のトップチームとしての確固たる基盤を築いている。

「全中」では、平成三年に本県勢同士で決勝戦を争い陵西中が優勝、その後山形八中が平成十年準優勝、平成十二年には優勝の栄冠を勝ち取った。

平成五年の全日本六人制実業団選手権で優勝を果たした東北パイオニアは、その後地域リーグ・実業団リーグを経て平成十一年にVリーグで優勝、Vリーグ昇格後も着実な足どりで頂点を目指し、遂に平成十五年五月の全日本選手権（黒鷲旗）に続いて、第十回Vリーグ女子でも初優勝に輝いた。続く第十一回Vリーグでは準優勝、更に今年の黒鷲旗で優勝したことは衆知のとおりである。

本市出身の高橋みゆき選手が主将をつとめるNECレッドロケッツとの戦いは、Vリーグ女子の看板試合ともなっている。

昨年に栗原恵選手を迎え入れたパイオニアレッドウィングスは、さらに進化を続け今後長く日本女子バレー界のトップに君臨しようとする時代に入ってきている。

本協会として山形市を中心に開催しているVリーグは、今後はH&A方式により、ますます地元開催が多くなってくる。より多くの観客を呼び込んで、大観衆の前で試合を行わせることが選手強化につながるものと考え、ホームゲームの特性を活かしてこれまで以上に盛り上がったVリーグに持つべきと考えている。

村山地区ハンドボール協会

会長 松尾 正城

村山ハンドボール協会は、「べにばな国体」の輝かしい成果を永く讃えるとともに、村山地区のハンドボール競技の普及・振興及び競技力の向上を目標に、山形東高校ハンドボール部OB会、寒河江高校ハンドボール部OB会、そして、山形大学ハンドボール会関係者が中心となり、平成五年六月に設立した。

本協会では、四つの専門部（総務企画部・強化事業部・普及育成部・渉外部）を設置し、それぞれの独自性を重視しながら、組織の活性化を図っている。総務企画部は、本協会事業全般の調整、財源の確保・財産管理を主業務とし、協賛企業訪問、賛助会員募集等を行っている。強化事業部は、更に、競技強化運営担当と審判育成担当に細分化し、競技強化運営担当において、べにばなハンドボールフェスティバル（平成五年度より開催）、村山地区高等学校サマリーリーグ（平成十五年度より開催）、指導者講習会（平成七年度・八年度・十一年度開催）等の事業を実施し、審判育成担当においては、今年度より公認審判員育成事業を実施している。普及育成部は、ハンドボール競技の普及振興を主業務に、小・中学生を対象にした山形ジュニアハンドボールクラブ（平成十五年八月設立）の指導・運営に当たっている。渉外部は、県ハンドボール協会、地区高体連ハンドボール専門部等との連絡調整を主業務

とし、当協会と関係機関・団体との連携強化に努めている。

本協会も、関係各位の御指導、御支援により、平成十五年に創設十周年を迎えることができた。今後とも、東北全国に通じる選手の育成とハンドボール競技の更なる普及振興を本協会の使命として、各種事業に取り組んでいく所存である。



[山形市体育協会、今昔]

「スポーツ行事実施の難しさ」 荒木 善行 (市体育協会顧問)

「第一回スポーツ山形市民の集い」の成功は、市体協組織を挙げてがむしゃらに開催に向け努力した結果であった。しかし、参加者を集めることの難しさは大変さは回を追うごとに増大した。

第二回(五十二年)には、会場を市民会館に移した。開会を青少年の参加しやすい十四時とし、内容の充実を図った。講師はオリンピックレスリング金メダリスト笹原正三氏(山形市出身)をお願いし、競技スポーツと健康づくりの両面からお話をお聞きしました。第三回(五十三年)は十三時開会、特にYTSテレビの協力で総合司会を古山アナウンサーで開会するという画期的なものになった。特にこの年は、インターハイ・バスケットボールの山形県開催の年なので内容で勝負としました。まず、五十二年度社会体育優良文部大臣表彰に輝く「もせずクラブ(サッカー)・おもだかクラブ(婦人バレー)」や、スポーツ少年団で活躍の「うめばちサッカー・蔵王スキー」、市民スポーツとして活発な「オリエンテeringクラブ・紅花スポーツクラブ」の団体を紹介。そしてインターハイ・バスケットボール種目出場を狙う市内男女高校五チームの激励と、明年一月蔵王開催の「インターシー」全貌の紹介を入れた。しかも、最後に地元スポーツ店の協力で参加者への抽選会を開くサービスぶりだった。第四回(五十四年)は十四時開会、講師にサッカーの岡野俊一郎氏「私はこう考えるー私のスポーツ観」と題して感銘深いお話をお聞きしたことを思い出す。そしてこの四回からは、市体協初制定の表彰規程に基づき市民スポーツ普及と指導に功績のあった方々の市体協表彰式を、この集いの参加市民の前で行う事とした。同時に、市民に対する生活とスポーツ・運動との関連の理解を共有してもらえればと考えた事と参加人数の増加が狙い。しかし、二回から四回までの入場者は努力して約三、四百人でした。ちなみに、予算は、第三回二十二万円、第四回が十八万円でした。

行政の協力を心から感謝すると共に、市体協の無力さを痛感。これが市民懇談会へ移行していった要因の一つであろうかと思えます。

地区振興会巡り 第5回 (出羽地区)

出羽地区体育振興会

代表 渡 辺 弘 英

出羽地区体育振興会の事業では昨年は、山形市合併五十周年記念事業として、出羽地区大運動会・出羽地区ソフトボール大会・バレーボール大会の記念大会として出羽地区をあげて開催をいたしました。出羽地区は、七中学区出羽・大郷・明治の三地区との協力体制を作り年に一回の話し合いまた懇親会をし体振活動について話し合う事が重要な要素として、とても参考にしております。

出羽地区の年間事業としては、グラウンドゴルフ大会・登山・地区運動会・ソフトボール大会・ソフトバレー大会・文化祭協賛事業として餅つき大会・地区ボウリング大会・地区友遊スキー等行っております。

さて、今年度事業も四月より始まり、四月二四日にはグラウンドゴルフ月例会地区民誰でも自由に参加できる出羽体振盃トロフィー持ち回りで四月から十一月の毎月最終日曜日(健康の森公園)に於いて朝九時から昼頃まで老若男女和気あいあいと楽しくスポーツで触合い、回を増すごとに参加者も増えてきました。小学生を連れた親子連れも、お年寄り夫婦そして若者などが一緒になってプレーを楽しんでいます。前回参加した人達がまたその友だちを誘いそして参加した人達が触合いを増していく、そして、五月二十二日出羽地区グラウンド大会が開催されました。今回の大会では、今までに大きく大勢の参加者が集まり担当役員も本当に大変でしたけれども、参加者全員、皆さん笑顔で満足して頂き大変よかったです。

この後は、七月三日には、出羽地区ソフトボール大会また、毎年好評の登山いつも申込者が多く人数制限するほどの人気事業です。今年七月十日に、南蔵王登山を計画しています。

これからも、スポーツを通して、出羽地区の人々との触合いを大切に、また、数多くのスポーツが地域に定着するように只今努力中であります。



出羽地区 山形市合併50周年記念事業
出羽地区大運動会 平成16年8月29日(日)

第51回 県縦断駅伝競走大会



写真提供・山形新聞社

第5区で山形の海鋒佑斗（山形中央高校）が区間2位の走りを見せる（大山～鶴岡6.2キロ）

総合六位に関しては満足できないし、チームのみんなも満足しきれないと思う。でもチーム全員でタスキをつなげたことはなによりよかったですし、走りきった後の達成感は何よりも変えられないものだった。今年は六位に終わってしまったが、来年は今年達成できなかった三位以内を達成できるように頑張っていきたいと思う。縦断駅伝は終わってしまったが、秋には県高校駅伝があるので、それに向けて力をつけていきたいと思う。今の力のままでは厳しい争いになってくるので、一人ひとりが意識を高く持って、自分がエースになってチームを引っ張るくらいの気持ちで、チーム全体の走力を上げていければ、必ず優勝できると思うので、個人の力で勝つのではなくてチーム全員で優勝したいと思う。

海鋒 佑斗

第五十一回山形県縦断駅伝大会に参加したことはとても良い経験になった。五区を走らせてもらって区間二位になったのは嬉しかったが欲を言うと、区間賞を取りたかった。走り終わった後、区間二位と聞いて、自分でも驚きや喜びはあったが悔しさが一番だった。

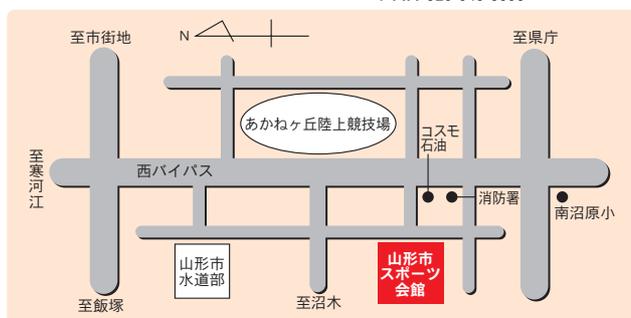
走っている間は、前に追いつこうと無心で走っていたが、後方車からの監督の声や沿道の人達から応援していただいて、とても力になった。自分一人で走っていたらこんな結果は出なかったと思う。監督、応援してくれたみなさん、スタッフのみなさん、なにとなく皆さんの人達のおかげだった。本当に感謝の気持ちでいっぱいだった。

財団法人山形市体育協会役員

名誉会長	市川 昭男	逸見 啓	西谷 金蔵	評議員	明日 浩幸	奥山 敏一	岩田 邦弘
顧問	荒木 善行 中村 弘	大場 登		細谷 富樫	庄一 龍一	高橋 武田	須貝 林憲男
参与	茅原 秀英			遠藤 安達	龍一 美	池野 久儀	東海 真太郎
会長	早坂 一彦			安達 順子	敏美 孝	榊 志田	杉本 喜昭
副会長	西 歳光			塩野 須貝	和孝 雄	後藤 西村	山本 則之
専務理事 (兼事務局長)	菅井 悠武	工平 貴夫	三瓶 賢也	須藤 佐藤	勇治 伸一	後藤 誠一	岡 直英
理事	宇野 正信	長沢 一好	早坂 豊	細川 池田	卓朗 敏行	地主 幸雄	秋葉 直雄
	須貝 憲明	伊東 秀幸	吉田 昇	池田 敏行	敬次郎 憲	岡崎 治彌	石井 宗吉
	佐藤 豊	吉野 利明	會田 正一	杵田 荒井	俊一 国雄	尾形 靖介	土屋 勝典
	金田 栄一郎	高野 修司	吉田 吉彌	大類 深瀬	山本 高佑		阿部 祐一
	城戸 庄悦						川田 長市郎
監事	鹿野 光正	深瀬 廣悦					鈴木 善太郎
							佐藤 博行
							鈴木 正人

財団法人 山形市体育協会事務局 (山形市スポーツ会館)

〒990-2477 山形市長苗代61番地 TEL 023-647-4175
FAX 023-645-5595



編集後記

本号から役員改選に伴い編集委員が大幅に入替えになりました。各所属委員会決定まで時間がかかった関係から、機関紙「躍動」の発刊が何時もより遅れたことをお詫び申し上げます。これまで頂点のコーナーでは、トップアスリートを紹介していましたが、優秀な選手の陰には良き指導者の存在があるのに、あまり知られていないケースが多々見られます。今回の企画から選手育成の秘訣などの一端が感じ取れば幸いです。

広報委員長 工平 貴夫

「躍動」へのご意見・ご感想をメールにて受け付けております。
右記のアドレスへお送り下さい。

y-spokan@atlas.plala.or.jp

躍動 第9号 2005 July

【発行】 財団法人山形市体育協会
 【編集委員】 工平貴夫、奥山敏一、渋谷邦弥、富樫庄一、東海林憲男、安達敏美、池野久儀、榊一、西村久男、石井宗吉、池田卓郎、地主幸雄、小金澤 栄、荒井敬次郎
 【事務局】 〒990-2477 山形市長苗代61番地 山形市スポーツ会館内 TEL 023-647-4175 FAX 023-645-5595
 【ホームページ】 <http://business3.plala.or.jp/y-spokan/> 【印刷】 (株)大風印刷